

**立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)**

**大学院学生研究**

**2017年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院 観光学研究科 観光学専攻		
<b>研究代表者</b> (2018年3月現在のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	観光学研究科 観光学専攻 博士課程後期2年		五艘 みどり 印
<b>指導教員</b>	所属・職名		氏名
	観光学部・教授		杜 国慶 印
<b>自然・人文・社会の別</b>	人文	<b>個人・共同の別</b>	個人
<b>研究課題</b>	持続的な農村形成におけるルーラルツーリズムの導入方法に関する研究		
<b>研究組織</b> (研究代表者・共同研究者) ※2018年3月現在のものを記入	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	観光学研究科 観光学専攻 博士課程後期2年		五艘 みどり
<b>研究期間</b>	2017 年度		
<b>研究経費</b> (1円単位)	(支出金額) 196,660円 / (採択金額) 200,000円		

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、農村部においてどのようにルーラルツーリズムが機能すれば、農村住民が継続的に住み続けたいと考える地域になるのかを明らかにすることを目的としている。そのために、アグリツーリズムが盛んなイタリアの中でも、日本の中山間地と類似する農業環境をもつボルツァーノ自治県を対象とし、農村住民への聞き取り調査を通して農村住民が継続的に住み続けたいと考えるために不可欠な要素が何かを明らかにし、続いて農村住民が継続的に住み続けたいと考える要素を充たすためにルーラルツーリズムはどのように機能するべきなのかを明確にする。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ルーラルツーリズム] [アグリツーリズム] [ボルツァーノ(南チロル)]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)使用する地域の名称について

研究に先立ち使用する名称について言及しておく。ボルツァーノは第一次世界大戦後にイタリアに割譲されたがドイツ語圏への帰属意識が高く、一時は独立運動が高まったこともありイタリアの自治県となった。住民はボルツァーノ自治県を「南チロル」と呼び公的記載もドイツ語と併記になっているため、その後の研究成果の公表においては「南チロル」を使用しているため、本論においても「南チロル」を使用する。

先行研究の取りまとめ結果

先行研究の取りまとめで得られた成果は次のようなものである。南チロルのルーラルツーリズムに注目する研究は 2000 年以降に登場し、西欧を中心に研究が蓄積された。Tommasini(2013)<sup>1)</sup>は、当該地域のルーラルツーリズムは住民の伝統や文化を発信する機会となり、住民のアイデンティティの高揚に至っていることを指摘した。また Forbrodら(2016)<sup>2)</sup>は、当該地域ではルーラルツーリズムの発展に農民連合などの農村組織が深く関与しており、ルーラルツーリズムの展開の仕組みの合理性を指摘した。一方大友ら(2016)<sup>3)</sup>は、Forbrodが指摘したような農村組織のうち農村女性連盟の活動に注目し、地域における農村女性の副業の高さを契機に職業訓練の研究を展開し、農村女性は農業経営者のパートナーおよび副業の担い手と位置付けられ、ルーラルツーリズムでも重要な位置を占めていることを指摘した。南チロルのルーラルツーリズムが発展的 success を収めているのは ISTAT、ASTAT など地域統計から明確であるが、その要因には地域の自治意識の高さがあり、また農村女性の存在が重要であることが先行研究より明確になった。先行研究に加えて、著者は過去(2016年3月および2017年3月)に南チロルのルーラルツーリズム関連団体(南チロル農民連合、南チロル観光協会、南チロル農村女性連盟)へのインタビューを実施し、当該地域のルーラルツーリズムは南チロル農民連合が推進組織として高く機能し、担い手には農村女性が重要な位置を占めていることを明らかにした。そこで現地調査においてはルーラルツーリズムと農村女性の関わりを中心に調査する方針とした。

現地調査の実施と結果

現地調査では、サン・ジェネジオ地域でアグリツーリズムを経営する農村女性へインタビュー調査を実施した。山岳やスキーを中心に 1960 年代から観光産業が芽生えた南チロルであるが、農家が自宅を改修するなどして宿泊や飲食のサービスを提供するアグリツーリズムはこうした観光産業が長らく発展しなかった地域を埋めるようにして拡大した。サン・ジェネジオ地域はその典型的な地域であり、研究対象地として適していると考えられるため選定した。サン・ジェネジオ地域には 2016 年には 20 のアグリツーリズムが存在したが、うち 1 件は業態をガストホフに変更、1 件は改修のため休業となっているため、営業は 18 件になっている。インタビューはこの中から 13 件(AT・A~M)について回答を得た。質問内容は農業経営、アグリツーリズム経営、農村女性の役割と意識について 40 項目とした。

調査結果の概要として、まず農業およびアグリツーリズムの状況だが、地域の主要農産物は牛乳、ブドウ、肉牛(豚)などで農家の約半数が混合農業を営み、9 割がジャム、ワイン、生ハムなどの農産加工品を家族・知人と観光客向けに生産している。アグリツーリズムは所有施設を改修し 1981 年から 2015 年の間に開始された。総収入のうち観光収入が 30%を超える農家が 7 割に上り、観光が農家の安定的経済基盤の一助になっていることがわかった。さらにアグリツーリズムにおける農村女性の経営への関与と役割についてだが、農村女性の 91%は南チロル出身で親の職業も農家という保守性が認められた。しかしながらアグリツーリズム開業の主張が女性主導であった農家が 69%、アグリツーリズムを支援する南チロル農民連合主催の経営等のセミナー参加も女性が 67%、農村らしさを観光客向けに演出する施設の装飾も女性の実施が 85%と、女性が積極的に経営に関与する実態が見られた。観光客への食事提供は家族全体で行うと回答した農家が多数だが、メニュー考案や調理は女性主導の傾向であった。またアグリツーリズム開業前後の農村女性の役割の変化については、育児や家事といった家庭の仕事量に大きな変化はないものの、男性の参加の拡大が認められる傾向にあった。一方で意識の変化としては、農村女性の経営参画が推進された、経済力が向上した、自立の機会が拡大した、という点が挙げられ、社会的立場における意識の変化が見られた。

**研究成果の概要 つづき**

また調査結果をもとに 13 件のアグリツーリズムを女性の経営関与度の高低に分けて分析を行った。経営関与度は農村女性がアグリツーリズムにおいて、①開業の提案を実施したか、②施設改修の提案をしたか、③経営に関するセミナーへ参加しているかを尺度に点数化して、高い方の 7 件を経営関与度高、低い方の 6 件を経営関与度低とした。そしてこの 2 つのグループにおいてアグリツーリズム経営および経営後の変化について指標を立て差異を見た。アグリツーリズム経営においては、指標を①格付（南チロル農民連合実施）、②観光収入、③サービス、④施設充実度、⑤教育歴・職業歴とし、最も高い評価を 5 としてアグリツーリズムを評価した。すると経営関与度高のグループが格付を除くすべての項目で経営関与度低のグループを上回る結果となった。アグリツーリズム経営後の女性の意識の変化については指標を①経済力が向上した、②経営参画が推進された、③地域活動への参加機会が拡大した、④自立の機会が増大した、⑤地域愛着心が向上した、⑥主観的幸福度が向上した、⑦自由時間が減少したとし、最も同意の高い評価を 5 とした。すると⑥の「主観的幸福度が向上した」において経営関与度高のグループが経営関与度低のグループを上回り、⑦の「自由時間が減少した」において経営関与度低のグループが経営関与度高のグループを上回るという結果になった。これらのことから、アグリツーリズムへの農村女性の経営の関与の高低が観光収入やサービスおよび施設の充実度に大きく影響し、また関与が高いほどにアグリツーリズム経営に関わるポジティブな意識が持たれていることがわかった。

さらにインタビューで得られた意見では、「南チロル農民連合の（10 を超える）セミナーを受講し、その間にアグリツーリズムの経営に関わる（地域外の）友人ができた」（AT・G の妻）、「アグリツーリズムを始めて妻が社会的になった」（AT・G の夫）、「ゲストが友人となり、ドイツやオーストリアの家に度々招いてくれる。」（AT・L の妻）、「アグリツーリズムを始める前は、女性は男性の秘書でしかなかったが、（開業によって）立場が変化した。」（AT・M の妻）などのように、アグリツーリズム経営への関与を通して農村女性が家庭や社会でその役割を変化させていることがわかった。

**研究の結論**

本研究の結論としては次のことが言える。それは、①南チロルのルーラルツーリズムは農村女性が重要な位置を占めていること、②地域のルーラルツーリズムの要であるアグリツーリズムの発展は農村女性により後押しされた、③アグリツーリズム経営に関わることで農村女性の経済力が向上するとともに積極的に社会活動に参加するようになった、そして①～③の結果として④アグリツーリズムの発展と農村女性の社会進出が相互に作用しているという点である。

**今後の研究**

なお本研究においては農村住民への調査をサン・ジェネジオ地域に限って実施したものであり、南チロル全体の傾向をより明確に述べるには継続的な調査が必要になる。本研究では第 2 回の現地調査において南チロル農民連合より全県のアグリツーリズム経営農家を対象にインターネット調査の協力を得ることができ、3 月にその調査を終了し、現在 300 を超えるサンプルの回収に成功し分析作業中である。この調査を不可することで本研究の結論をより強化する結果が得られると考えている。

**【参考文献】**

- 1) Tommasini, Daniela(2013): Geografia, Paesaggio, Identità Agriturismo in Alto Adige-Sudtirolo, FrancoAngeli
- 2) Forbord, Magnar and Schermer, Markus and Griebmair, Karin (2012): Stability and Variety? Products, Organization and Institutionalization in Farm Tourism; Tourism Management, Vol.33, No.4, pp895-909
- 3) 大友由紀子・中道仁美(2016): 欧州南部ドイツ語圏における女性農業者を対象とした職業教育・訓練制度の比較研究、十文字学園女子大学紀要 第 47 号, pp105-118

※この（様式 2）に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式）を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

**① 雑誌論文**

- ・ 南チロルのルーラルツーリズムの発展において農村組織が果たした役割  
単著、2017年12月、日本観光研究学会全国大会学術論文集第32号、  
pp401-404

**③ シンポジウム・公開講演会等の開催**

- ・ 和束町雇用促進協議会・茶源郷和束ビジネスカレッジ 2017  
「観光事業と連携した茶業の多様化によるビジネス人材養成セミナー」  
2017年8月28日 (京都府和束町・グリーンティ和束1階研修室)

**④ その他 (学会発表)**

- ・ 南チロルのルーラルツーリズムの発展において農村組織が果たした役割  
単著、第32回日本観光研究学会全国大会、2017年12月3日、  
金沢星稜大学
- ・ 南チロルのアグリツーリズム経営における農村女性の関わり  
単著、日本地理学会 2018年春季学術大会、2018年3月23日、  
東京学芸大学